

# 再評価一括審議案件資料

1. 下新川海岸直轄海岸保全施設整備事業
2. 一般国道289号 八十里越【防】

令和5年12月  
国土交通省 北陸地方整備局

令和5年度 第3回北陸地方整備局事業評価監視委員会 一括審議案件一覧

事業区分	事業名 (事務所名)	実施箇所	事業期間等	前回評価	全体事業費 (億円)	事業全体 B/C	都道府県・政令市等の意見	対応方針 (原案)	備考
海岸	下新川海岸直轄海岸保全施設整備事業 (黒部河川事務所)	富山県黒部市、下新川郡入善町、下新川郡朝日町	昭和35年度～ 令和24年度	平成30年度	約1,097	2.9	【富山県知事からの意見】 事業継続に同意する。 今後ともコスト縮減に努めるとともに、早期に効果が発現されるよう整備促進に格段のご配慮をお願いしたい。	事業継続	
道路	一般国道289号 八十里越【防】 (長岡国道事務所)	(起)新潟県三条市塩野淵 (終)福島県南会津郡只見町 大字叶津	昭和61年度 事業化 平成元年度 工事着手 平成2年度 用地着手	令和3年度	約825	—	【新潟県知事からの意見】 県民の安全・安心を確保し、活力のある新潟県を創るため、事業の継続を望みます。本事業により、本県と福島県をつなぐ道路ネットワークが強化され、産業や観光の振興、救急搬送、災害時の広域支援道路となるなど、本県にとって重要な事業と認識しております。 今後コスト縮減に努めつつ、着実な整備をお願いします。 併せて、本県は、厳しい財政状況のもと、公債費負担適正化計画に定めたルールに基づき、毎年度における投資的経費を公債費の実負担で管理していることから、事業の実施に当たっては、地方負担の軽減や直轄事業負担金の平準化などをお願いします。  【福島県知事からの意見】 国の対応方針(原案)案については、異議ありません。なお、本県の地方創生を支援するため、早期完成に努めてください。	事業継続	※防災面の効果が特に大きい事業

# 事業概要 (下新川海岸直轄海岸保全施設整備事業)

## (1) 目的

- ・将来にわたって進行する侵食を防止するとともに、1/50確率の高波に対して背後地への越波被害を防ぐ。

## (2) 事業概要

直轄海岸工事施工区域延長 : 17.225km  
 主要施設 : 直立堤、消波工、離岸堤、養浜工等  
 全体事業費 : (前回)約1,031億円 (今回)約1,097億円

## (3) 事業の進捗状況

令和5年度末

施設	単位	全体数量	執行済数量	残数量	進捗率
直立堤	m	11,668	11,668	0	100%
副堤	m	10,163	10,163	0	100%
緩傾斜堤	m	5,052	5,052	0	100%
消波工	m	12,369	12,369	0	100%
根固消波工	m	2,337	2,337	0	100%
突堤	基	55	55	0	100%
離岸堤(ブロック式)	m	8,090	7,190	900	89%
離岸堤(有脚式)	m	650	450	200	69%
副離岸堤	m	4,946	3,160	1,786	64%
人工リーフ	m	890	890	0	100%
養浜工	m <sup>3</sup>	640,600	30,000	610,600	5%
土砂流出防止工	基	24	0	24	0%
侵食防止工	m	100	30	70	30%
離岸堤補強	基	21	9	12	43%
副離岸堤補強	基	3	2	1	67%
合計(事業費ベース)					73%

## (4) 前回事業評価からの変更点

- ・第4工区越湖地先の離岸堤の構造についてブロック式から有脚式に計画変更を行い、近年の物価上昇も考慮して全体事業費を見直した。
- ・「海岸事業の費用便益分析指針」が令和2年4月に更新された。

## (5) 事業の進捗の見込み

- ・侵食が進行し危険な箇所から順次実施する。
- ・越波による被害が大きくなる家屋連担地区の整備を優先的に進める。

## (6) 概要図

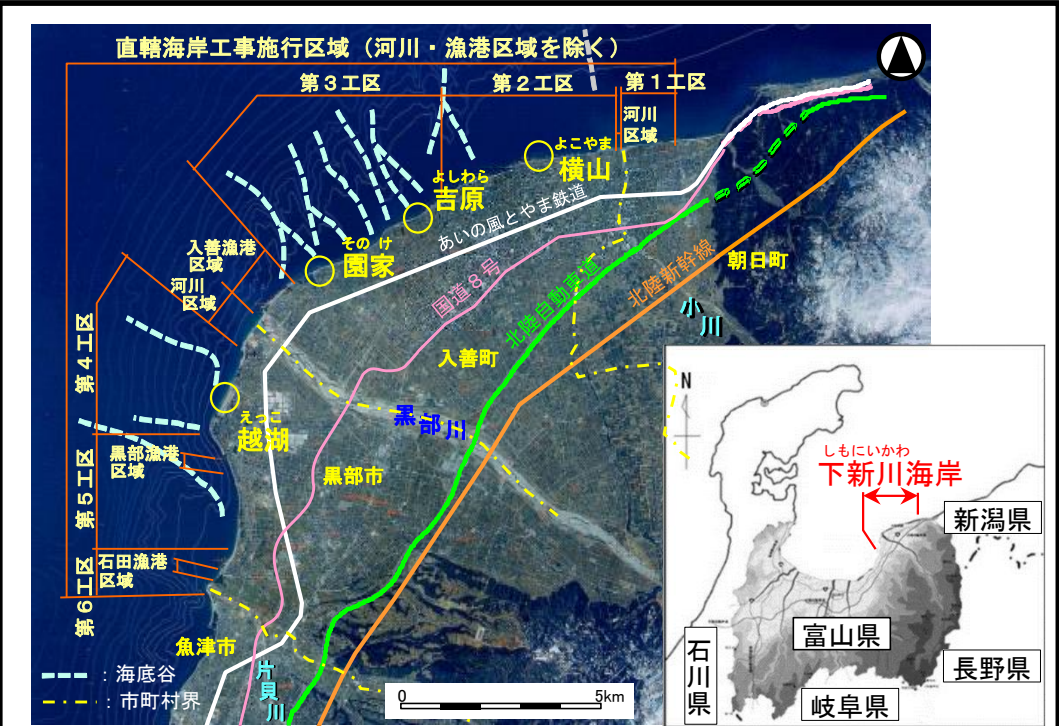


図1-1 下新川海岸直轄海岸工事施工区域全体図



凡例 離岸堤: 令和元年度以降整備済(令和5年度末) 離岸堤: 残事業

図1-2 前回事業評価以降の事業実施箇所、変更点(第2、3、4工区)

# 事業の投資効果・対応方針（しもにいかわ下新川海岸直轄海岸保全施設整備事業）

## （7）事業の効果

- ・ 直立堤や離岸堤等の整備により、しもにいかわ下新川海岸における想定侵食被害及び想定浸水被害が全て解消され、国土保全が図られる。
- ・ 整備が進められた本海岸や堤内地では、地域振興の一躍を担うイベントの場として利用されるとともに、海岸愛護・美化活動が地域主体で実施されるなど、地域住民の大切な賑わいの場となっている。

## （8）事業を巡る社会経済情勢等の変化

- ・ 前回再評価以降、周辺に大きな社会経済情勢等の変化はない。

## （9）事業の投資効率性

	事業全体		残事業	
	(前回)	(今回)	(前回)	(今回)
総便益B	約8,624億円	約11,350億円	約2,540億円	約6,381億円
総費用C	約2,831億円	約3,946億円	約208億円	約193億円
B/C	3.0	2.9	12.2	33.1

## （感度分析）

	事業全体 (B/C)	残事業 (B/C)
残事業費 (+10%~-10%)	2.9~2.9	30.1~36.6
残工期 (+10%~-10%)	2.7~3.1	31.7~34.5
資産 (-10%~+10%)	2.6~3.2	29.8~36.4

## （10）コスト縮減や代替案立案等の可能性

- ・ 新技術の活用、施工計画の見直し等の代替案の検討により、コスト縮減や環境負荷低減を図る。

## （11）対応方針（原案）

- ・ 事業継続とする。
- ・ 現時点においても、その必要性、重要性は変わっておらず、事業進捗の見込みなどからも、引き続き事業を継続することが妥当であると考える。

# 再評価の重点化・効率化判定表（下新川海岸直轄海岸保全施設整備事業）

## 費用対効果分析実施判定票

年 度： 令和5年度

事 業 名： 下新川海岸直轄海岸保全施設整備事業

担当課： 河川計画課

担当課長名： 高橋 恵理

※各事業において全ての項目に該当する場合には、費用対効果分析を実施しないことができる。

項 目	判 定	
	判断根拠	チェック欄
<b>(ア) 前回評価時において実施した費用対効果分析の要因に変化が見られない場合</b>		
<b>事業目的</b>		
・事業目的に変更がない	事業目的に変更がない。	<input checked="" type="checkbox"/>
<b>外的要因</b>		
・事業を巡る社会経済情勢の変化がない 判断根拠例[地元情勢等の変化がない]	地元情勢等の変化がない。	<input checked="" type="checkbox"/>
<b>内的要因&lt;費用便益分析関係&gt;</b>		
※ただし、有識者等の意見に基づいて、感度分析の変動幅が別に設定されている場合には、その値を使用することができる。 注)なお、下記2～4.について、各項目が目安の範囲内であっても、複数の要因の変化によって、基準値を下回ることが想定される場合には、費用対効果分析を実施する。		
1. 費用便益分析マニュアルの変更がない 判断根拠例[B/Cの算定方法に変更がない]	費用便益分析マニュアルの変更がある。 治水経済調査マニュアル(案)令和2年4月改訂、海岸事業の費用便益分析指針(改訂版)令和2年4月更新	<input type="checkbox"/>
2. 需要量等の変更がない 判断根拠例[需要量等の減少が10%※以内]	対象3市町の事業所数が14%減 (約3,600戸 → 約3,100戸)	<input type="checkbox"/>
3. 事業費の変化 判断根拠例[事業費の増加が10%※以内]	事業費の増加が6% (約1,031億円 → 約1,097億円)	<input checked="" type="checkbox"/>
4. 事業展開の変化 判断根拠例[事業期間の延長が10%※以内]	事業期間の変更なし(83年間)。	<input checked="" type="checkbox"/>
<b>(イ) 費用対効果分析を実施することが効率的でない判断できる場合</b>		
・事業規模に比して費用対効果分析に要する費用が大きい 判断根拠例[直近3力年の事業費の平均に対する分析費用1%以上] または、前回評価時の感度分析における下位ケース値が基準値を上回っている。	前回評価時の感度分析における下位ケース値が基準値を上回っている。 (平成30年度の感度分析の下位)  【事業全体】 残事業費(+10%) B/C=3.0      残事業費(+10%) B/C=11.1 残工期(+10%) B/C=2.8      残工期(+10%) B/C=11.7 資産(-10%) B/C=2.7      資産(-10%) B/C=11.0	<input checked="" type="checkbox"/>
前回評価で費用対効果分析を実施している	前回評価時の費用対効果分析結果： 平成30年度 B/C=3.0	<input checked="" type="checkbox"/>
以上より、費用対効果分析を実施する		

# 事業概要（一般国道289号八十里越）

はちじゅうりごえ

## (1) 目的

- ・ 通行不能区間の解消、安全・安心な暮らしの支援

## (2) 事業概要

事業化：昭和61年度

計画交通量：1,100台/日

全体事業費：(前回)約765億円 (今回)約825億円

## (3) 事業の進捗状況

令和4年度末、金額は税込み

	全体	執行済額	進捗率	残事業費
事業費	約765億円	約703億円	92%	約62億円
うち用地費・補償費	約2.6億円	約2.0億円	77%	約0.6億円

## (4) 前回事業評価からの変更点

公園内にある工事用道路の原形復旧費用や橋梁の耐震補強の追加等に伴う事業費を60億円増額し、事業評価期間を見直し。

## (5) 事業の進捗見込み

自然環境への影響に配慮しながら改良工事、橋梁工事等を推進し、全線開通を目指して整備を進める。



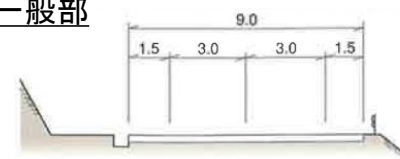
写真1-1 工事の進捗状況（5号橋梁）

## (6) 概要図

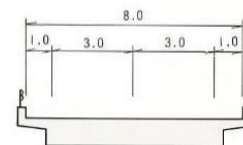


図1-1 広域図

一般部



橋梁部



トンネル部

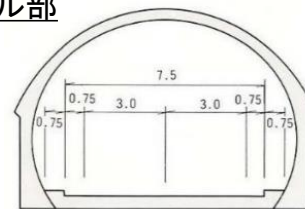


図1-3 標準横断面図

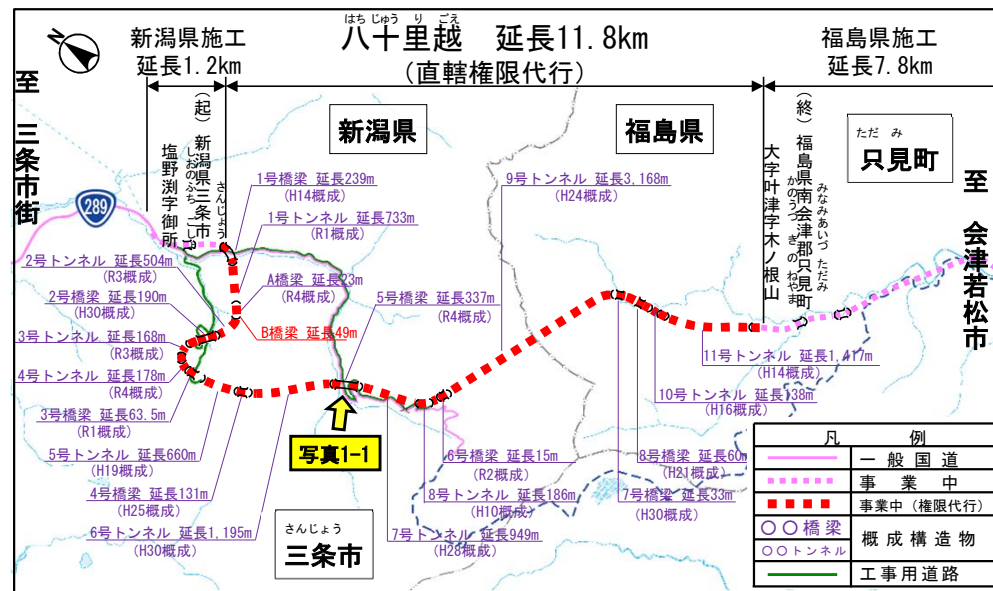


図1-2 位置図

# 事業の投資効果・対応方針（道路・街路事業）

## （7）事業の効果

### ①災害時における緊急輸送道路ネットワークの形成

- ・リダンダンシーの機能向上が図られ、年間を通じて天候に左右されない救命救急体制が構築

### ② 地域産業の活性化支援

- ・三条市へのアクセス性が向上し、福島県南会津地域と新潟県中越地域の地域産業の活性化が期待

### ③ 主要な観光地へのアクセス向上

- ・福島県南会津地域と新潟県中越地域の主要な観光地相互のアクセス性が向上し、関東圏からの新たな広域的な観光ネットワークの広がりが期待

## （8）事業を巡る社会経済情勢等の変化

- ・前回再評価以降、周辺に大きな社会経済情勢等の変化はない

## （9）事業の投資効率性

	事業全体		残事業	
	（前回）	（今回）	（前回）	（今回）
総便益B	約 641億円	約 545億円	約641億円	約545億円
総費用C	約1,138億円	約1,287億円	約103億円	約 92億円

## （10）コスト縮減や代替案立案等の可能性

- ・新技術、建設発生土の有効活用等により、コスト縮減を図る。

## （11）対応方針（原案）

- ・事業継続とする
- ・現時点においても、その必要性、重要性は変わっておらず、事業進捗の見込みからも、引き続き事業を継続することが妥当であると考え

# 再評価の重点化・効率化判定票（道路・街路事業）

年度： 令和5年度      事業名： 一般国道289号 はちじゅうり ごえ 八十里越

担当課： 道路計画課      担当課長名： 北出 一雅

項目	判定	
	判断根拠	チェック欄
事業を巡る社会経済情勢等の変化		
事業の効果や必要性、周辺環境等に変化がない	事業の効果や必要性、周辺環境等に変化がない	■
前回評価からの事業費・事業期間の増加		
事業費の増加	事業費の増加は8%(765億円 → 825億円)	<input type="checkbox"/> 増加無し <input checked="" type="checkbox"/> 10%以内増加
事業期間の増加	事業期間の延長は8%(40年間 → 43年間)	<input type="checkbox"/> 増加無し <input checked="" type="checkbox"/> 10%以内増加
前回評価からの費用対効果分析に関する影響要因の変化等		
費用便益分析マニュアルに変更がない	費用便益分析マニュアル改訂 (R4.2)	<input type="checkbox"/>
需要量の変化(需要量等の減少が10%以内)	需要量等の減少はない	<input checked="" type="checkbox"/>
周辺ネットワークで新規事業化がない		<input checked="" type="checkbox"/>
下記のうち、一方もしくは両方を満たしている ・事業費に比して費用対効果分析に要する費用が大きい ・前回評価時の感度分析における下位ケース値が基準値を上回っている		<input type="checkbox"/>
前回評価で資料の作成を省略していない		<input checked="" type="checkbox"/>
前回評価で費用対効果分析を省略していない		<input checked="" type="checkbox"/>
その他の事由(重点的な評価が必要な特別な事由)	なし	—
以上より、審議区分： <b>一括</b> 資料： <b>省略</b> 費用対効果分析： <b>便益算出</b> とする。		